

平成25年8月13日

飼い主さまへ

ペット&ファミリー少額短期保険株式会社
代表取締役社長 仲尾 孝

飼い主さまへお伝えしたいこと vol.2

残暑お見舞い申し上げます。

弊社では、飼い主さまの大切なおこさまを守るためにぜひご注意いただきたいことについて、弊社の保険金請求実績を踏まえ、定期的にお知らせしてまいります。第2回目は「**熱中症**」です。

気温や湿度の高い夏場は特に注意が必要ですが、少し涼しくなってくる8月後半や9月以降も決して油断できない病気です。

以下の内容でお伝えしてまいります。

Part 1. 熱中症ってどんな病気？	P. 1
Part 2. ワンちゃんは暑さに弱い!!	P. 2
Part 3. 熱中症の予防と対策（お家編）	P. 3
Part 4. 熱中症の予防と対策（お出かけ編）	P. 4
参考. 熱中症かもしれないと思ったら	P. 5

熱中症はご家族の注意で防げる事故です。
温度管理・湿度管理に気をつけて大切な家族を守りましょう。

今後も定期的に情報発信を行ってまいります。

以上

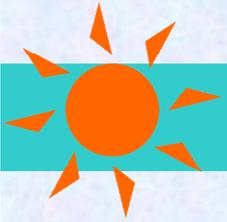
ペット&ファミリー少額短期保険株式会社

東京都文京区本郷三丁目34番3号

保険金のご請求に関するお問い合わせ先

電話：0120-584-412

URL：<http://www.petfamilyins.co.jp/>



PART1 熱中症ってどんな病気？



熱中症とは？

熱中症は、「体温の調節機能がうまく働かず、周りの温度に体が対応することができなくなる」死の危険のある怖い病気です。気温・湿度がともに高くなる夏場は特に注意が必要です。以下のような症状は、「熱中症」の危険信号です。

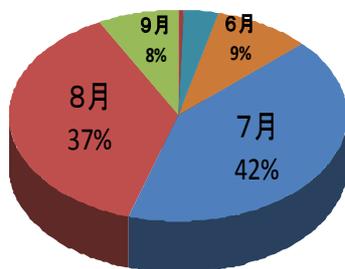
⚠ 熱中症の危険サイン

- ・体が熱い
- ・口を開け、舌をだしてハアハアと荒い呼吸をしている
- ・大量のよだれを流す
- ・ぐったりとして、吐いてしまう など



熱中症の発生状況

熱中症 月別の発生割合(%)



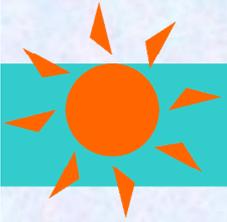
ペット&ファミリー少額短期保険調べ
(2009年～現在までの保険金支払データから算出)

熱中症は夏だけじゃない

弊社の保険金請求件数から、熱中症と季節の関係について調査を行ったところ、夏本番の7月・8月の発生が最も多いことがわかりました。初夏である5月・6月や9月も熱中症の発生が意外と多いようです。

熱中症は、**高温・多湿・風通しの悪さ**など、条件がそろってしまえば1年を通していつでも起こってしまう危険性があります。夏本番の7月・8月は「散歩の時間」や「室温」などに注意をされている飼い主さまも多いですが、少し気温が下がってきた季節でも十分注意が必要です。

1年を通した予防が大切です



PART2 ワンちゃんは暑さに弱い！！



ワンちゃんは暑さに弱い？

1. 体温調節が苦手！

犬はほとんど汗をかきません。暑い日は「パンティング」という浅く速い呼吸により体温を下げています。汗をかくことで体温を下げるできない分、体温調節が苦手です。

2. 毛皮を着ています！

犬は全身が毛で覆われています。「夏に毛皮のコートを着た人」を想像してみてください……。熱の放出が難しく暑さに弱い動物です。

3. 地面の放射熱に注意！

夏場にはかなり高温となる地面。ヒトよりも地面から近い位置にいる犬は、放射熱や照り返しの影響を受けやすく熱中症のリスクが高まります。

ぼくたち、熱中症になりやすい動物なんです・・・



熱中症になりやすいのはどんな子？

●短頭種

シーズーやパグ、ブルドック、ボストンテリアなど「短頭種」と呼ばれる犬種は、気道がせまいからだのつくりのため、パンティングによる体温調節の効率が悪い犬種です。

●寒い国原産の犬種

シベリアン・ハスキーやサモエドなどの北方原産のイヌは特に被毛が厚く、熱の発散が苦手です。

●その他

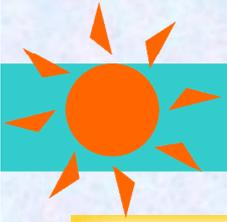
■肥満気味のワンちゃん

■子犬や老犬

■持病のあるワンちゃん

心臓に病気があり循環機能や呼吸機能が低下している場合 など特に注意が必要です。





お家で注意したい状況（お留守番の時は要注意！！）

- ・直射日光のあたる部屋
- ・換気の悪い閉鎖された空間
- ・エアコンによる温度管理がされていない部屋

1. 温度管理

- ・エアコンによる温度管理は大切ですが、冷え過ぎは下痢などの体調不良につながります。冷気が直接当たらないよう気を付けましょう。
- ・冷え過ぎを防ぐため、涼しい部屋とそうでない部屋を行き来できるようにしましょう。
- ・犬は人よりも低い場所で生活をしています。冷気は高いところから低いところへ流れる性質があるため、温湿度計を犬の体の高さにあわせて設置することもポイントです。

2. 涼しく風通しのよい環境をつくる

- ・クールマットを敷くなど、涼める場所をつくりましょう。
- ・遮熱性のカーテンを使用するなど、直射日光による室温上昇を避ける工夫をしましょう。
- ・犬の体温や吐息により温度や湿度が上昇するのを防ぐため、サークルやケージは壁から離して配置するなど、風通しの良い環境に気を配りましょう。



直射日光は暑いよ・・・



涼しいお部屋は快適だよ♪



クールマットで快適だワン！





PART4 熱中症の予防と対策—お出かけ編—



お外で注意したい状況

- ・暑さの厳しい時間帯
- ・直射日光のあたる場所
- ・温度管理がされていない車の中
- ・暑い日の地面は高温です！要注意！



お散歩

1. 時間帯 = 暑さと直射日光の厳しい時間を避ける！

熱せられた地面で足の裏(肉球)をやけどする危険があります。
蒸し暑い熱帯夜や雨上がりなど湿度が高い時にも注意が必要です。

2. お散歩ルート = 風通しがよく直射日光のあたらないルートを選ぶ！

ビルの間など、閉鎖された空間は熱がこもるため要注意です。

3. お散歩中の注意 = 休憩をはさみ、こまめに水分補給をする！



ドッグラン

1. 暑い日には短時間に

運動によって体温は上昇します。しっかりお水を飲ませたり、運動後は水浴びさせてあげることで、熱中症のリスクはぐんと下がります。



2. 水分補給を忘れずに

水分不足により血流が悪くなると、熱中症にかかりやすくなります。脱水すると、熱放散つまり冷却メカニズムがうまく作動せず、熱中症を悪化します。運動時はこまめな水分補給を心がけましょう。



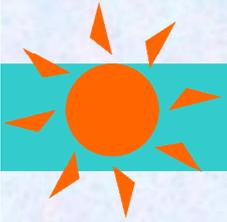
車でお出かけ



車の中でお留守番は絶対にNG

車内の温度はかなり上昇します。熱を逃がしにくい閉鎖された空間であるため、車の中での留守番は外にいるよりもずっと危険です！ドライブ中も、車内の温度管理にはしっかり気を配りましょう。





もしも

熱中症かもしれない？と思ったら・・・



熱中症かもしれない？と思ったら・・・

最寄の病院に連れていきましょう。できるだけ、ワンちゃんの体に負担がかからないように、安静状態で運んであげてください。

病院にすぐに連れていけない場合や、連れていくまでの間にお家でもできる応急処置があります。

POINT

●水分補給

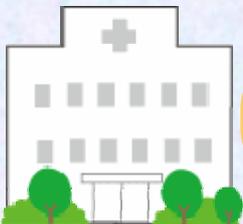
■2倍程度に薄めたスポーツドリンクなどがより、効果的です。

●体温を下げる

■頭や脇の下、後ろ脚のつけ根を、保冷剤や氷のうなどで冷やすと効果的です。

■体に水をかけてあげ(ビショビショに濡らさないように適度に)、うちわなどで風を送り、気化熱によって体温を下げます。

ただし、冷やしすぎも禁物です。なぜなら体温調節を行う体温中枢が壊れてしまい、体が冷えすぎて体温が戻らず、死に至る恐れもあるからです。



回復しない場合は、できるだけ早く病院に連れいきましょう！！
元気が戻ってきた場合も念のため、連れていった方が安心です。